

■早期供用案件の審議状況(H24.11.15現在)

番号	委員会	路線名	協定区間	短縮日数	工程短縮の概要	貢献度判定	① 全体工程 マネジメント	② 技術的工夫 施工方法の工夫 汎用性	③ 協議困難度 (相手・種類)	委員会での意見等
1	第15回	新名神高速道路	亀山JCT～甲賀土山IC	402	・土地収用法による用地取得を予定していたが、粘り強い交渉の結果、任意により用地取得し工程を短縮できた。 ・橋梁の張出し架設ワーゲンを転用から同時施工することで工程を短縮できた。 ・舗装、施設工事において施工パーティー数の増、作業時間の延長等により工程を短縮できた。	0.75	○複数のクリティカルにおける工程短縮	○架設ワーゲンの同時施工 ○舗装、施設工事での施工パーティー数の増及び作業時間の延長	・収用案件の早期任意解決	・土地収用法の事業認定手続きを進めながら、任意解決のために地元と交渉した部分に努力が見られる。 ・用地取得後の工程短縮に、早期供用に向けた全体マネジメントの努力が見られる。
2	第15回	新名神高速道路	甲賀土山IC～草津田上IC	402	・土地収用法による用地取得を予定していたが、粘り強い交渉の結果、任意により用地取得し工程を短縮できた。 ・大津ジャンクションにおいて、橋梁工事の型枠、張出し架設ワーゲンの同時施工、土運搬に大型機械(25tダンプ)を採用することで工程を短縮できた。	0.75	○複数のクリティカルにおける工程短縮		・収用案件の早期任意解決	・工程上のクリティカルである用地の任意解決を契機として、早期供用に向けた全体マネジメントを行い、一度に橋脚を立てるなど工程短縮のため施工方法の工夫が見られる。
3	第15回	館山自動車道	君津IC～富津中央IC	88	・埋蔵文化財発掘調査のパーティー数を増やし工程を短縮できた。 ・君津ICランプ切替工事の交通規制方法について関係機関と協議の上、工程を短縮できた。 ・舗装、施設工事において、作業時間の延長等により工程を短縮できた。	0.75	○収用後の土工・舗装工事の工程短縮		○千葉県収用委員会が再開して初めての案件 ○埋蔵文化財調査の工程短縮協議 ○関係機関との昼夜連続規制の協議	・パーティー数を増やして埋文調査を行い工程短縮に努めている。 ・千葉県の収用委員会が再開して初めての案件で、厳しい当初工程からさらに工夫し短縮されている。
4	第15回	中部横断自動車道	増穂IC～南アルプスIC	105	・橋梁部の舗装工事を早期に着手できるよう関係機関と協議し工程を短縮できた。 ・投物防止柵を設置するために並走する国道の交通規制が必要であったが、作業機械を工夫したことで国道の交通規制が回避でき工程を短縮できた。	0.75			×官官協議 ○合併施行における引渡し前工事着手の協議(前例無し)	・国交省委託工事との工程調整であり、道路利用者から見れば協議の難しさを理解しにくい面がある。 ・引渡し前に着手時期を前倒しすることは異例である。 ・この事例をきっかけに同様の工事では、可能な範囲で同様の調整に努めてほしい。
5	第15回	東海環状自動車道	五斗蒔PA	105	・近隣の病院(精神科、知的障害者更生施設)から環境保全等の要望が強く、協議の難航が予想されたが、環境保全や患者に対する安全対策等に配慮した施工計画を、粘り強く交渉を重ねたことから早期着手が可能となり工程を短縮できた。	0.5			・環境保全等の要望が強い病院との協議 ・周到な準備による戦略的協議	・国交省の苦勞した事例を見ながら、事前に根回しするなど作戦をたてて協議を行ったということが会社の努力。
6	第15回	磐越自動車道	郡山東IC～船引三春IC	380	・JR線上空作業の安全管理監督はJRが行うところを、本線上部構造(波型鋼板ウェブ箱桁橋)の特殊性を説明し、会社の自主安全管理の了解を得て、工程を短縮できた。 ・上部構造の形式変更により、既設アーチアバットを取り壊さず有効活用したことで、工程を短縮できた。 ・張出しブロックの延長や柱頭部の合理的な施工により工程を短縮できた。	0.75	○工程短縮のための、様々な検討(設計変更や技術的な工夫)	○上部工構造の変更による既設アーチアバットの有効活用 ○鉄道交差部での十分な安全対策による自主施工 ○張出しブロックの延長や柱頭の合理的な施工による上部工施工	○鉄道交差部の協議	・鉄道上空の安全管理監督を会社が自主施工できたのは、様々な工夫をした結果だと思う。 ・設計の見直し、技術的な工夫も含めて様々な検討をし、早期供用に相当寄与している。高めの評価で良いと思う。
7	第15回	常磐自動車道	山元IC～亘理IC	380	・当該カルバートボックス付近に土地収用案件があり、かつ軟弱地盤であることから、工程のクリティカルであったことから、関係機関との協議を行い、カルバートボックスを廃止できたことで、構造物の施工および載荷盛土、盛土撤去が不要となり、工程を短縮できた。	0.5	・クリティカルの回避		・収用案件の早期任意解決	・工程上のクリティカルになっているカルバートボックス部をうまく回避した。 ・過去に「協議案件」で認定しており、評価(0.5)は同等で良いのではないかと。
8	第17回	北関東自動車道	真岡IC～桜川筑西IC	345	・河川管理者との協議し、河川域内作業ヤード確保することにより、桁架設と架設ベントの設置を平行して実施し、2湧水期での施工予定を1湧水期に短縮できた。 ・県道を切り回して施工する計画を、門型支保工の採用により県道の切り回しを回避し、工程を短縮できた。	0.5			○川の流が複雑な箇所での河川協議 ×河川管理者の理解	・河川合流部であり、河川管理者との協議は困難だったと思われる。 ・協議が成立したのは会社の努力というより、河川管理者の理解があったからではないかと。
9	第17回	山陰自動車道 鳥取益田線	斐川IC～出雲IC	123	・土地収用法に基づく収用裁決が早期になされたため、工程を短縮できた。 ・豪雨による河川の氾濫により仮橋の付け替えを余儀なくされた事による工程遅延を、トンネル掘削方法の変更、監視員通路部分にプレキャスト製品を使用することにより回避することができた。	0.5	・災害による工程遅延の回避		・地元地権者協議及び収用委員会の協力	・4ヶ月工程を短縮できたのは、収用委員会の協力があってからだと思う。 ・協議の困難度や全体工程管理の実施など、会社の貢献度は標準より高いのでは。
10	第17回	東九州自動車道	高鍋IC～西都IC	257	・土地収用法による用地取得を予定していたが、粘り強い交渉の結果、3箇所のうち2箇所を任意により用地取得し工程を短縮できた。残りの1箇所も綿密な事前計画及び度重なる関係機関との調整の結果、事業認定告示から代執行までの期間を短縮できた。 ・口蹄疫の発生による舗装工事の工程遅延を、作業時間の延長により回避することができた。	0.5				・突然の口蹄疫による工程遅延のリスクを回避したことは評価できるところではあるが、会社の貢献度として標準より高い評価ができるかは微妙なところである。

■ 早期供用案件の審議状況 (H24.11.15現在)

番号	委員会	路線名	協定 区間	短縮 日数	工程短縮の概要	貢献度 判定	① 全体工程 マネジメント	② 技術的工夫 施工方法の工夫 汎用性	③ 協議困難度 (相手・種類)	委員会での意見等
11	第 17 回	東九州自動 車道	門川IC～ 日向IC	117	<ul style="list-style-type: none"> ・土地収用法による用地取得を予定していたが、粘り強い交渉の結果、任意により用地取得し工程を短縮できた。 ・土工、舗装工事において、作業時間の延長、下層路盤材に鉄鋼スラグを採用するなどにより工程を短縮できた。 	0.5		<ul style="list-style-type: none"> ・施工パーティ数の増(土運搬の調整等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・土工の作業班編成を増やして工程短縮したことは、施工業者の努力であり、会社がどういふ努力をしたのかこれだけでは分からない。 →数か月で大きな土量の本線盛土をする必要があり、土の運搬計画の調整や、急速な盛土での品質を確保するための施工管理などの努力を行った。